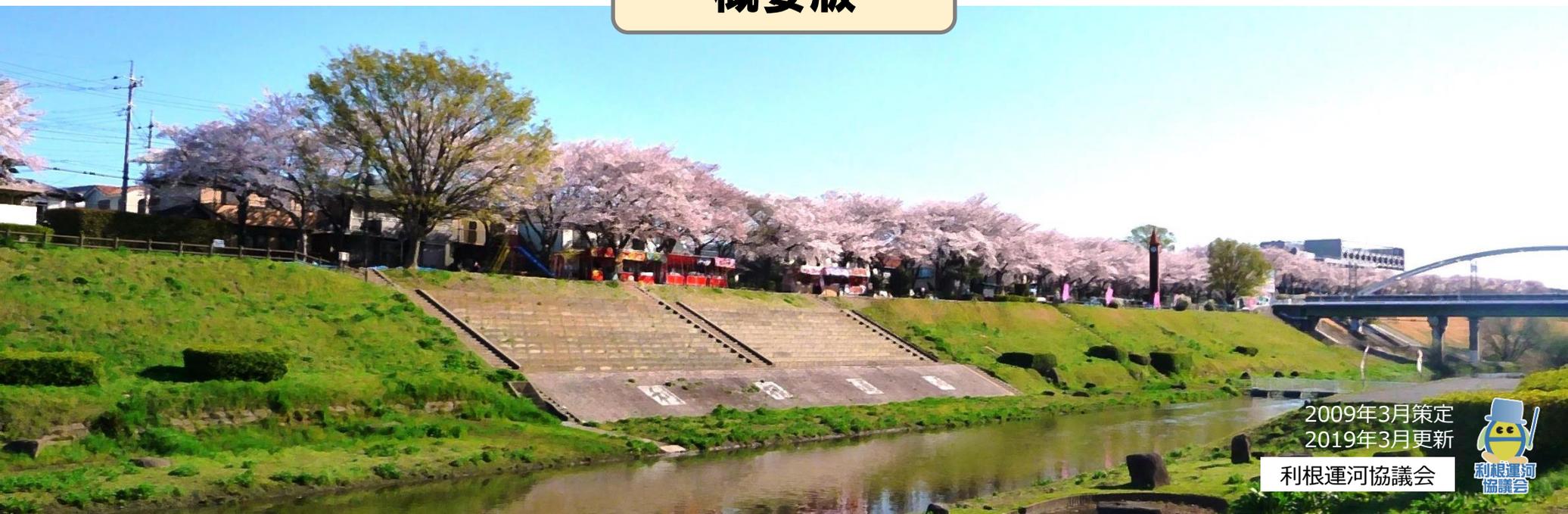


利根運河エコパーク 実施計画

第1期（2009～2018年度）

第2期（2019～2023年度）

概要版



2009年3月策定
2019年3月更新

利根運河協議会



はじめに

利根運河は、舟運の時代から治水・利水の時代を経て、完成から100余年の歳月を重ねた現在、豊かな自然環境が形成され、地域住民および来訪者に憩いの場を提供するとともに、その歴史的価値が評価され、観光資源としても注目されています。しかし一方で、環境基準を上回る水質の汚濁や、流量の乏しさ等の課題を抱えていました。

利根運河が抱えるさまざまな課題を地域が一体となって解決するために、平成18年度の国土施策創発調査において、各関係機関連携のもと、利根運河周辺における自然や歴史と調和した美しい地域空間の実現方策を検討し、成果を「利根運河エコパーク構想」としてとりまとめました。

平成19年度より、野田市、柏市、流山市、千葉県、国土交通省の行政関係者、有識者、民間団体の代表により構成される「利根運河協議会」を設立し、「利根運河エコパーク構想」のさらなる具現化に向けた検討・協議を進め、各主体が連携して具体的な事業展開につなげていくための実施計画として「利根運河エコパーク実施計画」を平成21年3月に策定しました。

この計画にもとづき、自然環境と社会環境の両面から各種対策や活動を展開してきました。平成30年度には、10年間の取り組みをふまえ、利根運河と周辺地域が将来にわたって発展する取り組みとなるよう、実施計画を更新しました。



「利根運河エコパーク構想」実現イメージ

1. 計画の目的

(1) 計画の目的

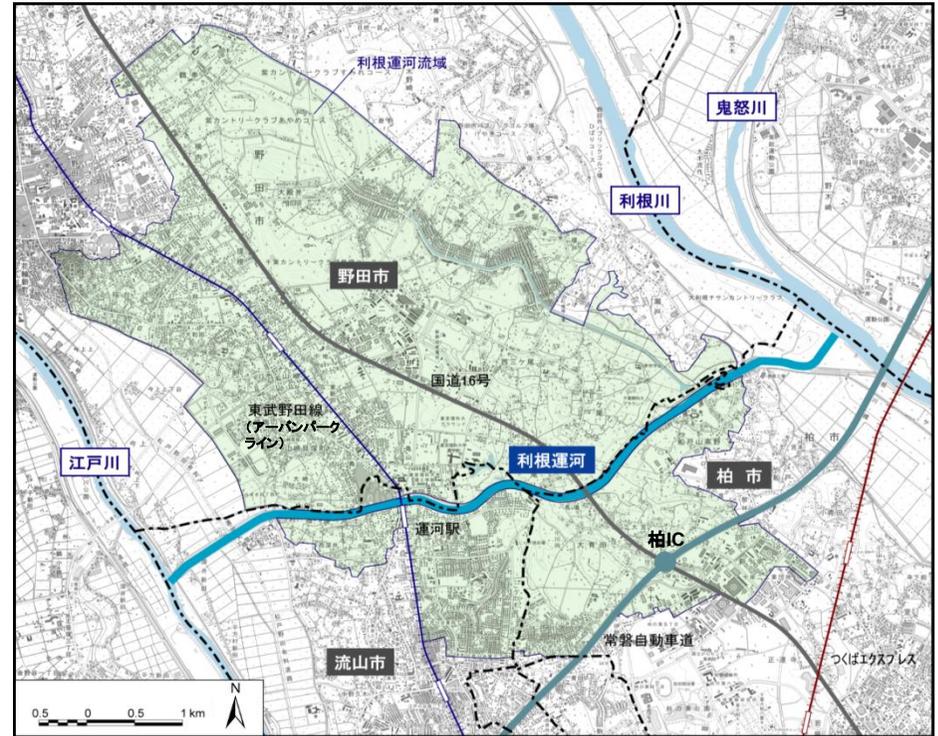
【目的】

利根運河の持つ豊かな自然環境がもたらすさまざまなサービス、運河の開削や舟運の発達により育まれた地域の歴史・文化を地域の資源として認識し、これらを将来にわたって守り、伝え、残すとともに活用することによって、自然とにぎわいと活力のある美しい運河空間の実現を目指す。

「利根運河エコパーク構想」について

利根運河エコパーク構想は、多様な動植物が生息する豊かな自然環境や自然生態系がもたらすさまざまなサービス（生態系サービス）、運河の開削や舟運の発達により育まれた地域の歴史文化などを地域の資源として認識し、これらを将来にわたって守り、伝え、残すとともに活用することによって、自然とにぎわいと活力のある美しい運河空間の実現を目指すものです。

実現に際しては、利根運河を軸に地域が行政界を越えて一体となり、地域住民や企業等と連携・協働による取り組みを進めていきます。



利根運河周辺地域



谷津の景観（江川地区）



堤防の野草



点在する歴史資源

1. 計画の目的

(2) 計画の経緯

「利根運河エコパーク構想」の具体化のため、「場づくり・しかけづくり・仕組みづくり」の3つの視点から目標を設定し、37項目の施策とその役割分担を示した「利根運河エコパーク実施計画」を平成21年3月に策定しました。

利根運河協議会では、この計画にもとづき、地域関係者が連携し、堤防の植物保全や、利用促進のためのイベント開催等、さまざまな取り組みを実施しています。

「利根運河エコパーク実施計画」では、目標の実現に向けておおむね10年(H21~30)を目途に施策推進を図ることとしており、平成29~30年度に施策の進捗評価や成果の検証を行い、今後のよりよい地域づくりに向けて計画を更新しました。以後を第2期計画期間として、これまでの成果を継承し、一層の取り組み発展につなげるため、地域連携による活動を進めていきます。

取り組みの一例



貴重植物の合同モニタリング調査



イベント出展による広報

成果の一例



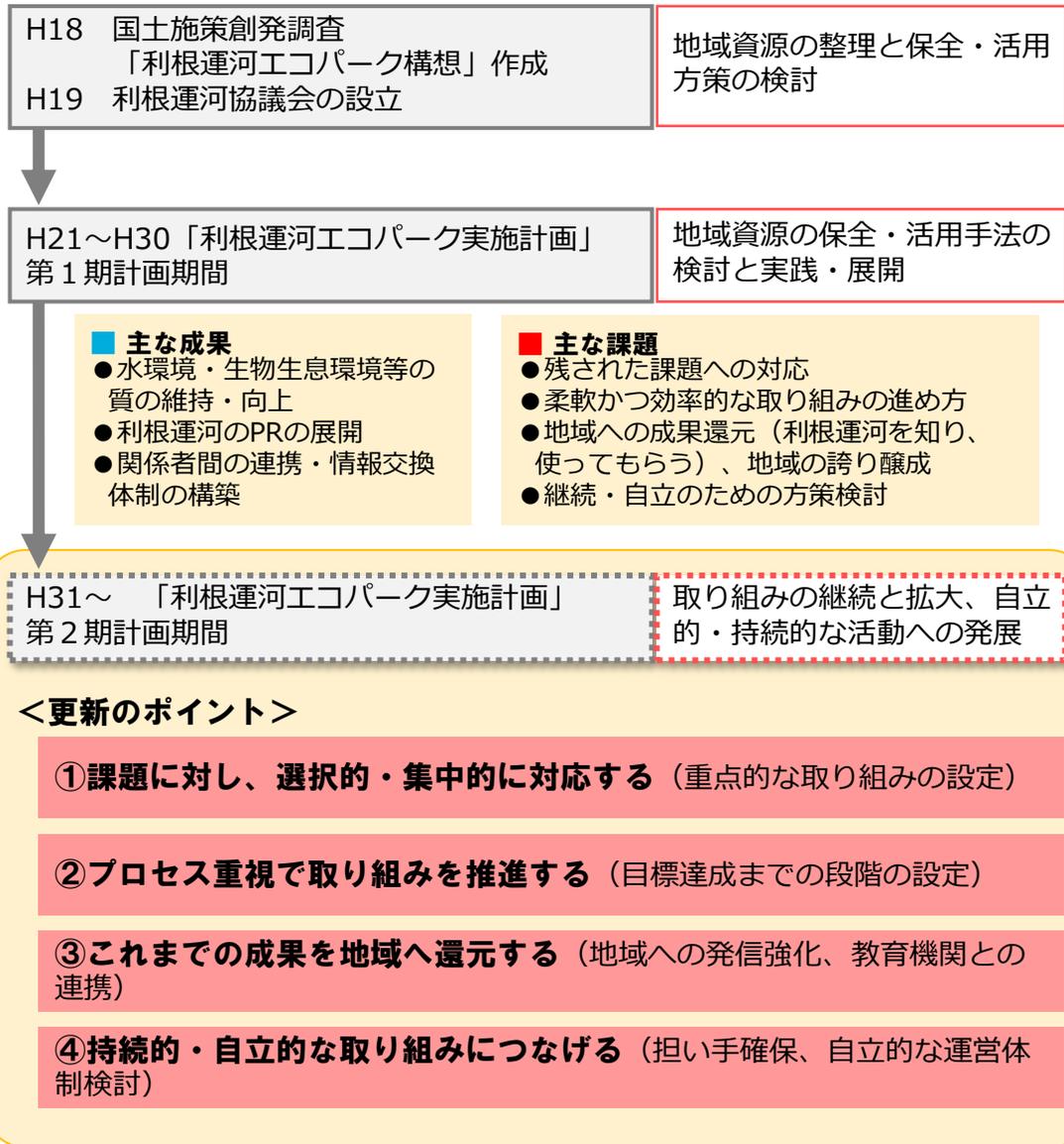
特定外来生物アレチウリ
⇒対策当初の約5%に減少

外来植物アレチウリ除去活動



利根運河周辺地域外(東京など)
からの参加者を獲得

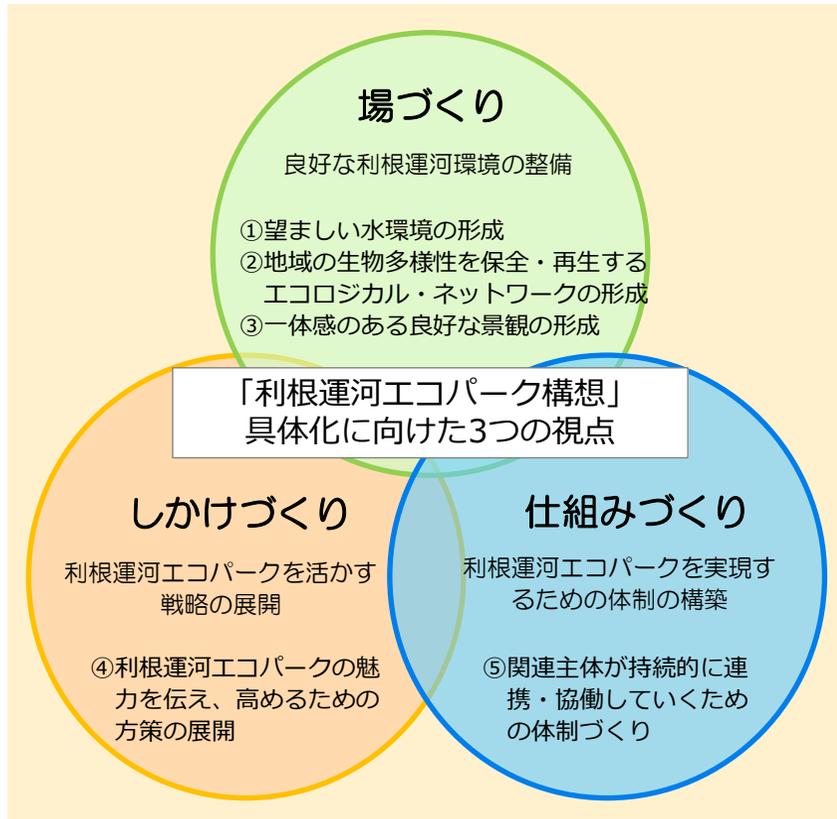
ウォーキングイベント



2. 計画の目標

「利根運河エコパーク構想」の具体化を図るために場づくり、しかげづくり、仕組みづくりの3つの視点から各種活動を展開してきました。

第2期計画では、第1期計画期間の成果と課題をふまえ、地域のさらなる発展に必要な事項を検討し、引き続き3つの視点に沿って目標を設定しました。



第1期計画期間でできたこと

- この10年で関係主体の連携・情報交換体制が構築されたとともに、目標像に向け取り組みを推進する土台(地域資源の保全・活用手法など)が整った。
- 自然環境、景観、エコツーリズムに係る具体的な取り組みも数多く実施し、着実にエコパーク構想の目標像に近づくことができた。

第2期計画期間で対応すべきこと

これまでのノウハウを活かしてさらなる取り組みの拡大を目指すとともに、活動が自立的に継続されるための体制づくりを進めていくことが必要。

場づくり

- 各主体による取り組みの継続
- これまでに蓄積した活動ノウハウを活かした取り組みの拡大
- 景観保全のための意識醸成

しかげづくり

- 時代に即した広報の展開
- 取り組みの効果を活かした、地域への情報の還元(学習・教育)

仕組みづくり

- 取り組みの土台となっている関係者間協議の継続(協議の場の継続設置)
- 各主体連携による活動が継続するための体制づくり

第2期計画期間では、目標達成までのプロセスを明確にし、進捗状況に応じて柔軟に取り組み内容を見直します。

協議会関係者や、地域の方とのより一層の連携・協働を図りながら、おおむね5年間での目標達成を目指します。

2. 計画の目標

(1) 場づくり

第2期計画 の主な課題

①水環境の形成

- ◇現況の詳細な把握、水質悪化の影響因子の分析
- ◇利根運河における効果的な水質改善方策の検討

②エコロジカル・ネットワークの形成

- ◇湿地再生、落差解消の未対策箇所への展開
- ◇市民等と連携した堤防植生保全活動の継続

③良好な景観形成

- ◇景観に対する意識醸成
- ◇エリアごとの保全対象・目標・対策の検討

目標（おおむね5年後の実現を目指す）

①水環境の形成

- 水質改善の取り組み強化、流量の維持

BOD 3.0mg/l が達成されている。

②エコロジカル・ネットワークの形成

- 保全活動等の継続と拡大

利根運河と周辺谷津等の生物生息場の保全・再生や連続性改善、および動植物の保護により、水辺のエコロジカル・ネットワーク形成が推進されている。

③良好な景観形成

- 景観意識の醸成

3市域に居住する人が“利根運河らしい景観”を知っている、イメージできる。

- エリアごとの景観保全の対象、目標、対策の検討

主要な景観構成要素を保全するための課題が明らかになっており、市ごとに当該景観の保全目標、保全対策の方向性が整理されている。

活動内容（おおむね2～3年以内の実施を目指す）

利根運河の効果的な水質改善方策が検討され、関係機関で共有されている。

取り組み案（一例）

- ◇利根運河の現況水質の詳細な把握、利根運河の水質悪化につながる影響因子の分析（利根運河の縦断的な水質、流入水路合流部の水質把握等）
- ◇利根運河の効果的な水質改善方策の検討

新たな箇所での取り組みに着手している、またはいずれかの取り組みで、面積や実施回数が現在よりも増加している。

取り組み案（一例）

- ◇エコネット形成の推進（湿地再生・落差解消等）
- ◇市民連携による貴重種保全
- ◇市民連携による外来種対策

整備済みの落差
(境田排水樋管)



利根運河らしい景観像を示し、意識づける取り組みを行っている。

取り組み案（一例）

- ◇絵画・写真コンクールの開催
- ◇景観ポイントへの看板設置
- ◇市民を対象とした景観講座の開催



利根運河の代表的な景観
(利根運河景観パンフレットより)

市域ごとの主要な景観構成要素について、各市の景観担当者と保全に向けた課題を協議している。

取り組み案（一例）

- ◇エリアごとの景観保全の対象、目標、対策の検討

2. 計画の目標

(2) しかけづくり

第2期計画 の主な課題

- ◇地域経済の発展につながる「利根運河ツーリズム」の検討
- ◇利根運河の利便性向上に向けた検討
- ◇これまでに得られた成果のPR、地域への還元

- ◇多様な媒体を活用した広報の実施（時代に即した広報の実施）
- ◇既存の利根運河広報の継続

目標（おおむね5年後の実現を目指す）

活動内容（おおむね2～3年以内の実施を目指す）

④ 魅力を伝え、高めるための方策展開

● 利根運河の利用促進

“利根運河ツーリズム”が関係機関連携のもと展開され関連イベントやプログラムを実施。地域外の人々の来訪が現在よりも増加している。

● 成果の還元

学校等で行う「利根運河学習」がプログラムとして定着。多くの人々が利根運河を誇りに思っている。

● 利根運河の魅力や協議会の取り組みを伝える広報

利根運河と協議会の取り組みが広く知られている。

関係機関の協議により“利根運河ツーリズム”のコンセプト、ターゲット、および経済活性化につながる具体的な観光メニュー（ハード・ソフト）を作成している。

取り組み案（一例）

- ◇ワークショップ、座談会等を通じた「利根運河ツーリズム」のコンセプト、モデルコース等の設定
- ◇官民連携による利便施設整備・維持管理手法の検討
- ◇河川空間における民間企業と連携した魅力づくり

学校教育や、生涯学習で行う利根運河の学習プログラムが作成・実施されている。

取り組み案（一例）

- ◇学校教育や生涯学習への「利根運河学習」の組み込み
- ◇「利根運河学習」につながる学習支援ツールの作成・公開

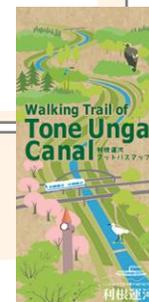
考えられるプログラム例

- ・利根運河での生きもの探し
- ・利根運河周辺の里山と生きもの解説
- ・利根運河の舟運の歴史 等

これまで対象としていなかった層（子ども、都心居住者、外国人）に利根運河の魅力を発信している。

取り組み案（一例）

- ◇多様な媒体による広報
- ◇新たなターゲット（子ども、外国人等）に向けた広報



英語版
フットパスマップ

2. 計画の目標

(3) 仕組みづくり

第2期計画 の主な課題

- ◇各種活動の担い手の確保と育成
- ◇活動が持続的、自立的なものになるための運営基盤の構築

- ◇各種会議の継続
- ◇取り組み効果の把握、評価

目標（おおむね5年後の実現を目指す）

活動内容（おおむね2～3年以内の実施を目指す）

⑤ 体制づくり

● 担い手の確保と育成

新たな参加者層や人材等が利根運河の活動に参加している。

新たな参加者層や人材等(地域活動団体、民間企業等)へのアプローチが行われている。

取り組み案（一例）

- ◇地域人材の発掘、参加呼びかけ
- ◇人材登録制度の創設
- ◇活動の手引き等、支援ツールの作成

● 運営基盤の構築

既存の取り組みのうち、いくつかの活動が自立的な取り組みに移行している。

既存の取り組みを自立的なものにするための協議が行われている。

取り組み案（一例）

- ◇活動資金の調達・管理のための検討・調整
- ◇将来にわたり、利根運河協議会の活動が持続するための運営体制の検討

資金調達の手法例

- ・補助金制度の活用
- ・企業協賛金の受け入れ
- ・クラウドファンディング

その他

これまでと同様、各会議（利根運河協議会、専門部会、WG）の継続と取り組み効果の把握（アンケート調査等）を継続する。

取り組み案（一例）

- ◇各種会議の継続、必要に応じた小WGの新設
- ◇取り組み効果の把握、評価（毎年度、目標に対する進捗を確認し、適宜取り組みの見直しを行う）



会議の様子

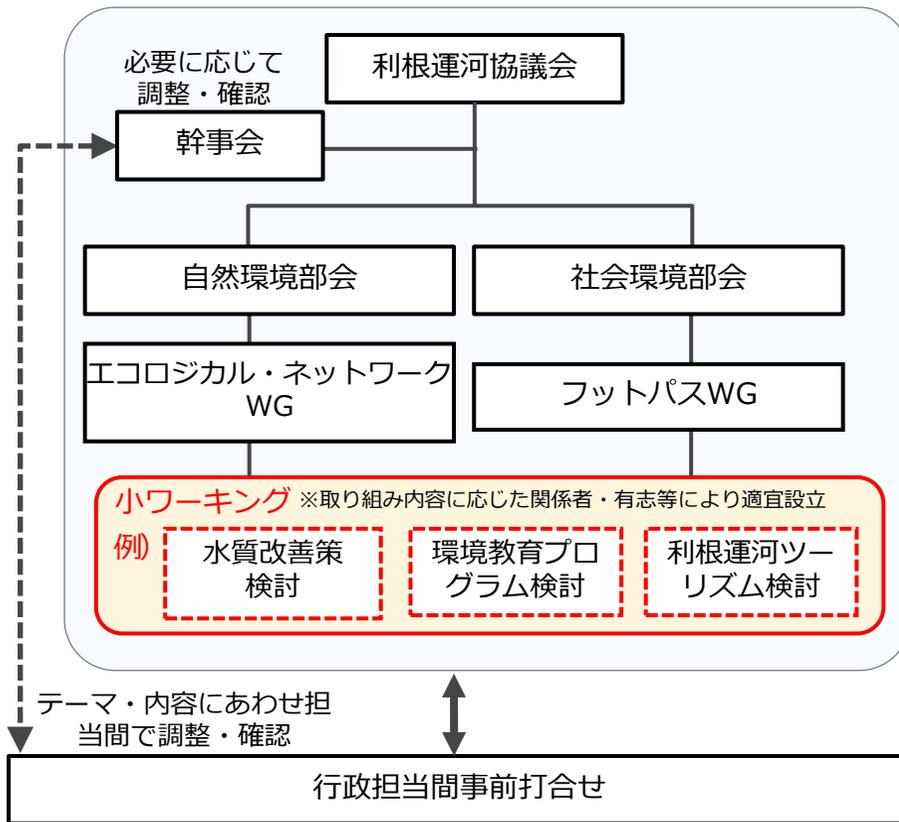


利根運河利用者へのアンケート調査

3. 計画を進める体制

これまでの体制を基本に、これまでの成果を活かして地域資源の保全・活用を進めるために、自然環境・社会環境分野のより一層の相互連携（自然環境資源を地域振興に活用するなど）が図られるよう、会議の枠を超えて取り組みを推進します。

集中的に取り組むべき事項には、テーマに特化したメンバーによる小ワーキングの設立により対応します。



構成員

■委員・WGメンバー

- 学識経験者
 - 東京理科大学 名誉教授：内山 久雄【利根運河協議会委員長】
 - 埼玉大学大学院理工学研究科 教授：浅枝 隆【社会環境部会座長】
 - 東邦大学理学部 教授：長谷川 雅美【自然環境部会座長】
 - 公益財団法人 日本鳥類保護連盟 評議員：葉山 嘉一
 - 東京理科大学理工学部 教授：二瓶 泰雄
- 民間代表
 - NPOさとやま
 - かしわ環境ステーション
 - 江戸川の自然環境を考える会
 - 利根運河の生態系を守る会
 - 利根運河水と緑21研究会
 - みどりのふるさとづくり実行委員会
 - 野田自然保護連合会
 - 東葛自然と文化研究所
 - 東武鉄道
- 野田市
 - 市長
 - 自然経済推進部 みどりと水のまちづくり課【エコロジカル・ネットワークWG幹事】
 - 土木部 下水道課
- 柏市
 - 市長
 - 都市部 公園緑政課
 - 環境部 環境政策課
- 流山市
 - 市長
 - 都市整備部 みどりの課
 - 土木部 河川課
 - 環境部 環境政策課
 - 経済振興部 流山本町・利根運河ツーリズム推進課【フットパスWG幹事】
- 千葉県
 - 県土整備部 河川環境課
 - 東葛師土木事務所 調整課
 - 柏土木事務所 調整課
- 江戸川河川事務所
 - 調査課【利根運河協議会 事務局】
 - 運河出張所

■オブザーバー（必要に応じ専門的立場から助言・協力等を行う）

- 関東地方整備局

